

『自転車と同じくらいうれしかったこと』

ミュンヘン日本人国際学校（ドイツ）

小五 中山 花歩

（海外滞在年数一年三カ月）

今日、わたしは、お父さんといっしょに
自転車を買いに行った。

わたしはドイツに来てから

自転車がほしくてたまらなかった

日本にいたときは持っていたけど

でも、すっかりさびている。

「また、あの自転車に、のりたいなあ。」

と、時々思う。

自転車屋さんについて、お店に入ろうと

したら、

おひげをはやしたおじいさんが、

「ハロー」

と声をかけてくれた。そのおじいさんは、

一台の自転車をひいていた。その自転車は

わたしが今、一番ほしかった自転車だ。

でも、わたしは、思い切って言った。
「イツヒ ハイセ カホ ナカヤマ」
（わたしの名前は、中山 花歩です。）
すると、おじいさんは、おどろいた顔を
していた。
わたしは、ドイツ語で、あいさつができた
ので、気持がスッキリした。
まるで、心の中のごみをそうじきです
取ったように・・・
「ボーヘア コムスト ドウ？」
（どこから来たの？）
と、おじいさんが。
わたしは、うれしくなって、
「イツヒ コメ アウス ヤーパン」
（わたしは日本から来ました。）
わたしは、そういうと、
「あっ、わたし、ドイツ語しゃべれた。」
と、さっきの二倍、うれしくなった。
自転車を買ってもらったのも、うれしかっ
たけれど、



人と外国語をしゃべれると、なにかほしい
ものを買ってもらったようにうれしい。